# 自転車街頭指導

## “6月11日付「秋田民報」より”

# 盗難被害防止へ

### 大仙署が自転車街頭指導

高校生らに呼びかけ

大仙警察署（清水秀昭署長）は9日、大曲駅前自転車駐輪場で街頭指導を行った。今年度の犯罪被害防止モデル校となっている秋田修英高校の生徒会執行部の生徒6人が中心となり、帰宅時間帯の高校生らに鍵掛け励行と自転車盗難被害防止を呼び掛けた。

日本ロックセキュリティ協同組合が2001年に制定した6月9日の「ロックの日」に合わせた取り組み。生徒のほか署員や大仙地区少年保護育成委員ら計20人が参加した。

「自転車の盗難に注意！」と書かれたのぼり旗を掲げ、午後4時から約30分間、駐輪場に入って来た高校生らの自転車の鍵の状態を1台1台確認した。

生徒達は「自転車から離れる時は必ず鍵をかけてください」などと声を掛けながら防犯チラシや啓発用のポケットティッシュを配布。鍵に異常がある自転車の利用者には盗難被害防止を呼び掛けた。

自身も駅の駐輪場を利用しているという同校生徒会長の小磯拓也さん（17）は「普段から施錠していない自転車を見ることがある。自分達が模範となり確実な施錠と安全利用を徹底することで、地域全体の意識やマナーが高まれば良いなと思う」と話していた。

同署管内では昨年1年間で7件の自転車盗難被害があり、そのうち4台が無施錠だった。同署では被害防止のため▽確実な施錠▽備え付けの鍵のほかにワイヤー錠などを付ける「ダブルロック」▽防犯登録―を推奨している。

20人が参加した街頭指導